

平成 27 年 5 月の解説（週間天気予報）

【5 月の天候状況】

上旬は、日本付近を低気圧と高気圧が交互に通過し天気は数日の周期で変わりましたが、北・東日本を中心に低気圧の影響は弱く、移動性高気圧に覆われる日が多くなりました。このため、全国的に晴れの日が多く、北・東日本の日照時間はかなり多くなりました。また、北・東日本の気温は、日照時間がかなり多かったことに加えて、日本の北を通過した低気圧に向かって南から暖かい空気が流れこんだため、かなり高くなりました。一方、1 日には、上空に寒気を伴った低気圧の影響で大気の状態が不安定となり、九州南部では局地的に猛烈な雨が降りました。

中旬は、北日本付近を短い周期で低気圧が通過したほか、11 日から 12 日にかけて台風第 6 号が沖縄・奄美付近を北上した後、四国沖で温帯低気圧に変わりました。このため、北日本から西日本にかけての天気は数日の周期で変わり、台風や低気圧の影響で広い範囲で大雨となり、北日本日本海側では降水量がかなり多くなりました。沖縄・奄美では、高気圧に覆われて晴れの日が多くなりましたが、旬の終わりに梅雨前線が沖縄・奄美付近に停滞し、沖縄・奄美が梅雨入りしました。

下旬は、低気圧が日本の北を通過することが多く、本州付近は移動性高気圧に覆われたため、北日本から西日本にかけて晴れる日が多くなりました。そのため、北・東日本と西日本日本海側の日照時間はかなり多くなりました。また、南西からの暖かい空気が流れ込んだため、北・東・西日本の気温がかなり高くなりました。一方、沖縄・奄美付近では梅雨前線の活動が活発になったため、沖縄・奄美では曇りや雨の日が多くなり、大雨となったところもありました。

月平均気温は、全国的にかなり高くなりました。55 地点で 5 月の月平均気温の高い方からの 1 位の値を更新しました。また、月降水量は、東日本太平洋側でかなり少なく、北・西日本、東日本日本海側で少なくなりました。月間日照時間は、北・東日本でかなり多くなり、西日本で多くなりました。

【5 月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7 日目の平均）は、全国平均では例年値（注）より 3 ポイント高い 74%でした。各地方の適中率は、特に北海道地方と東北地方で 8～12 ポイント高くなりました。

最高気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.1 小さい 2.7 となりました。各地方の予報誤差は、特に東北地方で 0.5 度小さくなりました。最低気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.1 小さい 1.9 となりました。各地方の予報誤差は、概ね例年値と同程度でした。

（注）例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【7 月の週間天気予報の利用にあたって】

平年では、7 月の中旬から下旬にかけて九州から東北にかけて梅雨明けとなります。しかし、梅雨明けの時期は年によって違いがあり、梅雨明けが遅れると、日照不足とともに長雨や低温により農作物の生育に影響が及ぶことがあります。週間予報で曇りや雨の日が予想され平年より気温の低い日が続く場合には、早めの対策を取るなど、向こう一週間の天気や気温の傾向を農作物管理等に活用してください。